



花き栽培の手引き

平成13年3月

青 森 県

はじめに

本県の花き生産は、夏季冷涼な気候を生かし、花色が鮮やかで花保ちが良い切り花を主体に拡大が図られ、他の農作物の生産が伸び悩む中で、着実に増加してきております。

このことは、花き生産者並びに関係者のたゆみない努力の賜物であり、深く敬意を表するところであります。

県では、平成17年を目標年次とした「第2次青森県花き振興計画（平成8年3月策定）」における生産額150億円の目標達成のため、花き生産者の組織化や担い手の育成に努めるとともに新品種・新品目の早期普及、施設化・長期出荷の推進や種苗供給・集出荷施設の整備等により全国有数の花き生産県を目指して産地育成に取り組んでいるところです。

近年、花は、「心の豊かさ、ゆとり」をもたらすものとして生活面でさらに重視されるようになってきており、個人消費が伸びている反面、景気低迷により業務用、贈答用の需要が減少傾向にあるなど厳しい環境にあります。また、輸入花きが増加するなど、内外の産地間競争が激化していることから、これに対抗できる産地強化が急務となっております。

こうしたことから、産地強化対策として最も重要で技術の高位平準化を進めるうえで基本となる「花き栽培の手引き」を「やさい・花き栽培の手引き」から独立した形で発刊することにいたしました。これは、本県花き振興の拠点として平成8年8月に開設した「フラワーセンター21あおもり」における最新の研究データを基に、技術や品目を大幅に増やし、全面的に内容を見直したものです。

この手引きが花き関係者の指導書として大いに活用され、本県の花き生産が新世紀に大きく発展することを強く望むものであります。

終わりに、執筆並びに編集をいただきました各位の労に対して深く感謝申し上げます次第であります。

平成13年3月

青森県農林部長 仙北 富志和

発刊にあたって

本県の花き生産は、市場から夏場の良質品出荷産地として期待され、また、ガーデニングブーム等の追い風もあり、出荷数量・金額とも順調な伸びを示してきました。

しかしながら、花きの生産規模は果樹や野菜に比べると著しく零細で、多種類少量生産という花き経営の特徴から、系統販売額は依然として低い状況にあります。

一方、野菜をはじめ、花き等の輸入増加や情報取引など流通形態の変化、市場開放の高まりなど農業分野にとっては今後も厳しい先行きが予想され、系統販売事業や農家経済に大きな影響を与えるのは必至の情勢であります。

このような情勢下にあって、本県の花き産業をますます発展させるためには、将来とも揺るぎ無い足腰の強い産地を作り上げることが肝要であり、そのためには集出荷施設等の整備拡充はもちろんのこと生産技術の高位平準化や低コスト、省力化を取入れ、消費者ニーズ、市場ニーズに対応した競争力のある商品を育て上げ系統共販の拡大につなげる事が重要であると考えております。

このたび、平成5年来「花き栽培の手引き」を発刊するにあたり、本書がJA営農指導員等指導に携わる方々に広く活用され、21世紀の魅力ある花き産地づくりに役立てていただければ幸いです。

最後に、本書の発刊にあたり、御指導と御協力を賜りました関係当局をはじめ、執筆いただきました各位の労に深く感謝する次第であります。

平成13年3月

青森県経済農業協同組合連合会

代表理事会長 種 市 一 正